

# 熱中症危険情報の日が続きましたが

# 花ノ木

第 120 号

令和 6 年 11 月 24 日

花ノ木医療  
福祉センター

電話 0771-23-0701

FAX 0771-22-8348

H.P <https://kyoto-hananoki.jp/>

## 第一病棟

第一病棟では、個別活動や集団活動の充実を図るために、職員みんなと協力して考え、利用者さんの楽しみを作り、笑顔溢れる病棟にしたいと取り組んでいます。

個別活動ではゲーム、シャボン玉、ボーリング等をして楽しみました。集団活動では、五月から田植えに取り組み、猛暑にめげず水管理をしたことで、スクスクと育ってくれました。九月に稲を刈り入れた後、外出で農家さんへ行き籾摺りをしてもらい、沢山の玄米ができ、コイン精米機で白米にした後、利用者さんの給食としていただく予定です。

七月～八月の間はデイスプレイ活動



作品として、画用紙で作った向日葵にシールを貼ったり、絵の具で色を付けたりと、自由に一人一人作成してもらい、病棟に沢山の向日葵が咲きました。園芸グループでは、野菜や花を栽培し、成長を通して五感で季節を感じ生活の質の向上を図ることを目的として活動しています。今年の猛暑で枯れてしまった花もありましたが、あきらめず毎月取り組んでいます。

十一月～十二月の作品作りとしては、紅葉や冬景色を作成しています。もみじの貼り付けを皆で楽しく作成中です。

(生活支援員 石田 愛夕菜)

## 第二病棟

第二病棟の就学前の乳幼児さんは保育活動、就学中の児童さんは学齢児活動として、発達や年齢に合わせた活動を行っています。

この夏、保育活動ではウォーターマットに寝転んで水の感触を楽しんだり、ビニールプールの中で温水にゆらゆら浮かんだりして遊びました。



製作や、巨大絵本の読み聞かせをしました。活動が始まると「何が始まるの？」と期待の表情が見られ、製作に集中して取り組みました。

八月の病棟行事「夏のお楽しみ会」では、オリジナルTシャツを作ろう！とタイダイ染めにも挑戦。一人ずつエプロンをつけ、沢山の中から色を選び、真っ白なTシャツが目の前でカラフルに染まってく工程を楽しみました。後日、青やピンクの鮮やかな色と絞り模様がおしゃれな、世界に一つだけのTシャツが完成！完成したTシャツは、夏休み明けの二学期初日に全員で着用しました。職員や学校の先生方から「きれい」「かわいい」と声を掛けてもらい、素敵な夏の思い出となりました。

(生活支援員 星野 聡美)

## 第三病棟

コロナが落ち着き、ようやくいろいろな場所へ外出できるようになり

ました。この夏は猛暑の日差しを避けて涼しい場所へと、四年ぶりに利用者さんは思い思いのおでかけを楽しみました。

アル○ラザではクレインゲームで取ったぬいぐるみを抱きしめて離さない方、京都水族館の水槽に目を輝かせて見られる方、皆さん病棟ではあまり見ることのできない表情で楽しさを伝えてくださいます。車窓の景色に歓声を上げ、レストランやフードコートで舌鼓を打ち、ゲームセンターの賑わいに興奮する。外出の醍醐味を全身で感じて、楽しそうな声をたくさん聞かせてくださいました。



外出に興奮される方もいれば、普段はとても活発な方が静かに町の様子を見ている姿に新鮮さを覚えることとあり、おでかけが生活を豊かにしてくれていることをあらためて実感しています。

コロナ禍は過ぎたとはいえ、まだまだ油断はできません。これからも感染対策を整えて皆さんに楽しんでいただける外出を計画していきます。

(生活支援員 北村 哲也)

## 第五病棟

今年の夏はとても暑い日が続き病棟外に出る事が難しかったので、利用者さんが室内で過ごせる活動内容を多く取り入れました。

七夕活動では、詰所前で短冊に願い事を書いて順番に笹に飾り付けをしました。テレビ鑑賞では、パリオリンピックや高校野球の映像を真剣な表情で楽しめました。夏休みの宿題では、職員と一緒にみかんなどの果物を画用紙で作り、山の形をした画用紙の上に



のりで貼り付け、かき氷を作りました。夏祭り週間では、職員と一緒にスタンプを使ったうちわやお神輿制作を楽しみました。また、室内を暗くし花火の映像を見ることができ、迫力がある映像や音を楽しみ、夏祭りの雰囲気味わうことができ、保護者の方からは、「一

緒に花火が見ることが出来てとてもよかった」と好評でした。誕生日会では、お祝いの歌を歌ったり鈴や太鼓を鳴らしたりしながら誕生日の利用者の方をお祝いすることができました。保育活動では、ボールプールに入られると手足を動かしボールを触って笑顔でプール遊びを楽しみました。

これから過ごしやすい季節になりま

(生活支援員 吉田 望)

## はなのき通所

はなのき放デイでは、夏休み中に放デイ夏祭りを実施しました。当日は花柄や渋い紺色の可愛らしい甚平を着て、いざ出発！会場の扉を開けるとそこには大きな一つ目の提灯小僧がお出迎え。児童よりうんと大きいその姿に「何これ？？」と目が離せないお子さんも。



怖くないよ」と、みんなが集まってはいチーズ！

写真撮影の後、まずは魚釣りゲーム。釣った魚の裏に書いてある得点の合計で競います。制限時間は一分間。どの魚が高得点だろうと考えながら、みんなひよいひよい魚を釣り上げていきます。「大漁〜！」の声に、にんまり笑うお子さん達。

次はお楽しみクジ引き大会。ボールプールの下に隠れている豪華景品をヒモで引き上げます。当たったおもちやを早速開けて欲しいとねだるお子さんもいました。

最後に可愛いアヒルが泳ぐスパーボール掬い。水遊びが大好きなお子さんはスパーボールには目もくれず(笑)手で水を跳ね上げて大はしゃぎでした。

みんなそれぞれ夏祭りを満喫しました。

(生活支援員 飯田 真菜)

## 児童発達支援センター

放課後等デイサービス「ココはなのき」では、どの曜日も学習・SST(ソーシャルスキルトレーニング)・うんどう・プレイを組み合わせた活動に取り組んでいます。

時々児童センターの中庭(西側にある公園)から元気な声!!が聞こえてくるのを存じでしょうか?身体を使って元気に遊ぶことはもちろんですが、「公園で何して遊ぶ?」と友だちと相談

して決める

ところ

を取り組

みとして

います。

相談する

ことは、

「話を聞

く、意見

を言う、

自分の意

見を譲

る」など

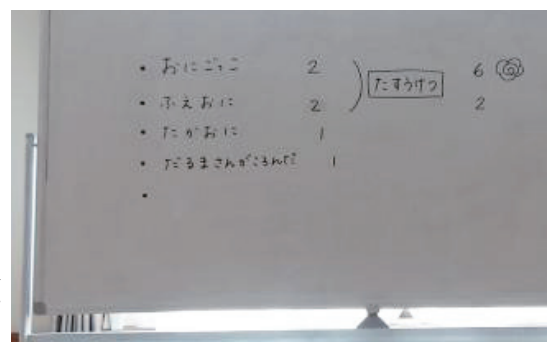
が必要で

すが、相手

の気持ちを

考えず自分

がしたいこ



ですが、相手の気持ちを考えず自分がしたいことばかりを言い続ければトラブルになってしまいます。相手や場面によって、自分の対応を変えていく柔軟性が求められ、SSTのいろんな活動場面で練習をしています。

公園遊びにおいても、「私は〇〇がしたい!僕は△△がしたい!」と意見を出し合い、他の友達の見聞を聞く中で「やっぱり△△にするわ!」ということになったり、多数決の時(私は〇〇がやりたいのに・・・みんなが決めたから今日は△△ね)と自分の気持ちをコントロールすることに向き合っている子どもさんがいます。

中庭遊びにもこんな奥深い過程があることを思いめぐらしながら、元気な子ども達の声をお聞きください。

(ココはなのき 松本 真寿美)



# 情報発信事業 ボランティア講座

## ～災害時のボランティア活動～ 〈講演〉

10月5日(土)に情報発信事業「ボランティア講座」災害時のボランティア活動」と題して、要配慮者へのボランティアとしての関わり方や支援方法を学び災害時に活かす、という内容で社会福祉法人洛西福祉会の山口貴也氏と、



京都府社会福祉協会の黒田昌一氏の2名を講師としてお招きし開催しました。参加者は26名と、ここ最近では多くの来場をいただきました。まず最初に山口氏から、「京都市DWAATによる派遣活動報告地震と水害」災害時の一般避難所の現状と様子について講演していただきました。自然災害の特徴について細かく説明があり、災害派遣活動とはどのような事をされているのかを聞くことが出来ました。特に「災害時には、ライフライン(電気・ガス・水道)が止まってしまう、日常生活に欠かせなくなった携帯の充電も出来ないため、友人・知人の生存確認で連絡を取るのには最小限にしましょう。」というお話では、私も熊本の地震の時に、避難している知人がSNSで同じような話を連絡してくれた

ことで、被災地での逼迫した様子を感じました。その後は、様子が気になる気持ちを抑え、少し時期を遅らせて連絡するようになりました。今年の石川県の災害活動では、ITを活用した支援がとても役に立ち、全国のDWAAT隊員が現地に集結する中、オーブンチャットを活用し、どの場所に何が足りないのか、それぞれの避難所の細かい様子をすぐに把握でき、細かい支援に繋がったそうです。災害時には、被災者と支援者にとって「電力」がどれほど大事なのか知る事ができる講演内容でした。他にも、避難所では10日程経つと半数以上の避難者が入れ替わっている事、100均ショップにも防災グッズが多く売られている事、床で過ごすのと段ボールベッドで過ごすのは10度も体感温度が違う事等の豆知識を聞く事ができました。



000人のボランティアの方が来られ、受付や活動先の割り振りを基本に行われているので、被害内容を把握し、必要な場所に人員を配していくだけでも大変な作業だと想像できませんでした。ただ大変な事ばかりでもなく「1人の力が微力でも人が集まれば大きな力になる。」「作業後に被災者から「ありがとうございます！」の一言でボランティアに来て良かったと思う。」とのお話があり、心温まる経験の数々を聞く事も出来て良かったです。そして、災害の復興には、ボランティアの活動が大切である事を強く感じました。ボランティアに行く時の服装はどの季節でも長袖・長ズボンが必須、現地での食料は自分の分は自分で確保して行くこと、ライフラインが使えない事を心得て行くこと等、細かく教えてくださいました。



その他に、災害が起こる前からの心得として、地域での繋がりは大事であり、繋がりを掛け合いを例にあげて、日々声を掛け合い世間話が出来る間柄を「うどん繋がり」挨拶したり顔を知っている程度の間柄を「素麺繋がり」と、とても分かりやすく表現されていました。仕事をしている日常では、近所さんと会話する機会も少ないことに改めて気づき、うどん繋がりまではなかなか出来ないですが、素麺繋がりだけでも、もっと広げていく必要がある」と自分を振り返る良い機会にもなりました。

他にも講師のお二人の多くの体験談を聞くことができ、参加者のアンケートからは「災害時の対応の話が印象的だった。」「とても良い講座だった。」「次回も是非参加したい。」などの感想が多くありました。

花ノ木医療福祉センターは災害時の福祉避難場所に指定されています。職員同士、職場が避難場所になった時どんなことが想定されるかをすればいいのか、考え・話す良いきっかけにもなりました。

お二人には、貴重なお話しをいただき感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

(ボランティア委員 第二病棟 生活支援員 坂井 孝子)



※当日の様子を花ノ木HDにYouTubeでUP予定です。

# 掲示板

## ◆情報発信事業

### 支援のアイディア展示会

令和6年9月28日(土) 児童発達支援センターで、4つの係(こども療育・児童支援・発達医療・相談)合同での情報発信事業を開催しました。

今回の企画は、昨年度末の小学校との連携会議の際に、ある学校の先生より「療育で使われていた手がかりをいただけませんか?」とお願ひされたことがきっかけでした。支援に使っているものをお渡しするのは簡単です。しかし、アイテムの背景をもっと詳しくお伝えすれば、その子に合った支援を受けられる子が増えるのではないかと考えました。

支援者・保護者の方々が気軽に来て、児童発達支援センターを知ることができるよう、文化祭をイメージしながら、職員全員で、展示の内容や方法を考え、いくつかのテーマごとに支援グッズを展示したり、放課後等デイサービスで取り組んでいる教材を体験してもらおうコーナーを作ったりしました。

「公認心理師のミニ講義は、参加しやすいように二回にしよう」「休憩・交流スペースを作ろう」「気になることを気軽に聞ける相談ブースを作って、相談員や公認心理師が対応しよう」など、連携する部署の協力も得て、バラエティに



富んだ企画を盛り込むことができました。50名近い参加者があり、沢山の方がグッズをじっくり見て、職員とも交流していただく事ができました。アンケートには、「支援してみようと思いました。」という前向きな感想が多くあり、職員の自信ややりがいにも繋がり、今後も続けていければと思っています。

(こども療育係 高橋 良子)

## 花ノ木の動き

(令和六年七月一日〜令和六年十月三十一日)

- 7/3 所内研修「理事長講話」
- 11 所内研修「前期医療安全」
- 19 医療管理棟等防災訓練
- 8/8 所内研修「BCP(災害・感染症)」
- 21 所内研修「ハラスメント」
- 22 消防設備点検
- 9/4 所内研修「個人情報・苦情解決」
- 11 総合防災訓練
- 12 所内研修「新規採用職員・関連施設訪問」
- 17 通所なつまつり
- 18 児童発達支援センター防災訓練
- 19 健寿のつどい
- 21 情報発信事業
- 28 「骨折リスクに配慮した介助方法」
- 3 情報発信事業「支援のアイディア展示」
- 5 所内研修「院内感染」
- 9 情報発信事業「災害時のボランティア活動」
- 16 所内研修「先進地調査ユニット成果報告」
- 20 第46回亀岡自衛消防隊消火訓練大会
- 第26回花ノ木ふれあいまつり

## 編集後記

意識的に癒しのひと時を過ごす時間を作るようにしています。

時間に追われるような生活スタイルになってしまったのはいつ頃からでしょうか。

オンライン面会でも活用していますが、携帯(スマホ)等の普及によりリアルタイムで動画でのやり取りが簡単にできるようになりました。録画したもの

を共通のファイルにUPしておけば特定の家族だけが自由に見られる便利なアプリもあります。

でも、やはり直接触れ合いながら、目の前で相手の反応を見ながら、短時間でも楽しく、たとえ後で疲れを感じても、一緒に過ごす時間を作った方が癒しの効果は大きくなり、日常の活力になっているように思います。最近流行りの、推しにも似ている所が?

先日、三歳になった孫が参加する初めての運動会に招かれました。徒競走ではダントツの一位でテーパーカット!ゴール付近の特等席でスマホを向け、待ち構えていたものの、目で追うのに精一杯で撮影に失敗(:(;)ダンスでは振付を完璧に覚え、センターで踊る様子を他所の保護者から、あの子可愛い!!と聞こえてくると、親ばかならぬ、じっちゃん・ば

っちゃんバカぶりを発揮!最近、兄のマネをするようになった弟の方も一緒になって突進して来る、そんな限られた癒しの時間を上手く作り、使っている時や、ダラダラとボーっとする時を過ごす事に生産性が無くても、無駄な時間ではなく、跡に何か残るものはあるはず、と自己肯定しています。たとえそれが上手い時間の使い方とは言えないにしても。

(編集委員 俣野一博)